

人間も動物の仲間なんだね

一般に子供たちは、“動物”という言葉、“獣”もしくは“哺乳類”の内容で理解しています。テレビで理科の先生までが「鯨は魚ですか。動物ですか」と質問していました。動物は魚類、鳥類、哺乳類、昆虫などの上位概念なのに、魚類の対立概念として使っているのは、動物を明らかに哺乳類の意味に使っている証拠です。このように、先生でさえ間違えるくらいですから、小学生ではなかなか理解できないのが普通です。

ところが、一年生に“動物園”と書いて指導しますと、「先生、動物って、動く物と読めるね」と言います。「そう。生き物は、草や木のように一つ所に立っていて動けない物と、犬や猫のように動き回れる物と、大きく二つに分けることができる。動き回れる物を、動く物と書いて“動物”と言うことにしたのだ」と教えてやりますと、「へーえ、じゃあ蟻さんも動物なの」「金魚も動物なんだね」「人間だって動物の仲間なんだね」子供たちは驚いたように言いました。

これは、“動物”という漢字だから、ここまで一年生が考えるのです。

“どうぶつ”というかな書きでは、絶対にここまで思考は発展しません。

「遠足の集合時間は八時三十分。時間を間違えないようにね」私がそう言いましたら、「先生、八時三十分は時間ではなくて時刻ですよ」と一年生に訂正されました。

時刻と時間について、学校では区別できるように教える教材があり、必ず教えることになっています。しかし、それは“じかん”と“じこく”という表記なので解りにくく、また、教える方もその時だけで、あとは無関心です。

それで、教える先生が混用するものですから、一度は正しく覚えた子供も、すぐ混用し、誤用するようになってしまいます。しかし、漢字で学習した子供は、理解が深いので、自信をもって先生の誤用を訂正できるのです。